

令和元年度第1回四街道市子ども・子育て会議 会議録（概要）

日 時 令和元年5月30日（木）午後1時30分～午後3時30分
場 所 四街道市役所 5階 第1会議室
出席委員 井澤会長、伊藤副会長、青柳委員、加瀬委員、千脇委員、利光委員、
石原委員、中島委員、白石委員、佐々木委員、佐藤委員、竹原委員、
蜂谷委員、早川委員
欠席委員 笹岡委員
事務局 矢部健康こども部長、小島健康こども部参事
子育て支援課：山崎課長、三好課長補佐、石川主事
保育課：能勢課長
健康増進課：井内課長
コンサルティング業者 株式会社 ぎょうせい 担当研究員2名

傍 聴 人 2人

―― 会議次第 ―――

1 開 会

2 委嘱状交付

3 会長挨拶

4 健康こども部長挨拶

5 議 題

①四街道市こどもプラン～第2期子ども・子育て支援事業計画～

策定方針について

【資料1-1、1-2】

②ニーズ調査の結果について

【資料2】

③本市の子ども・子育てを取り巻く状況について【資料3】

④その他

6 閉 会

―― 議事概要 ―――

○開会

○委嘱状交付

○会長挨拶

○健康こども部長挨拶

○会議の公開・非公開の決定、会議録の作成について

会 長 本日は傍聴希望者がいる。議事運営に著しい支障が生じるとは認められないため、会議を公開とする事とし、会議資料についても傍聴人に配布する事としてよろしいか。

《異議なし》

会 長 会議録の発言者名は、会議の公開に関する規定により明記する事となっている

ので、本会議においても同様とする。

それでは、傍聴人を入室させる。

○議題1 四街道市こどもプラン～第2期子ども・子育て支援事業計画～策定方針について

- 会 長 議題①「四街道市こどもプラン～第2期子ども・子育て支援事業計画～策定方針について」事務局より説明をお願いします。
- 事務局 《資料1-1、1-2について事務局説明》
- 会 長 ただいまの説明について、何か質問はあるか。
- 竹原委員 事業所調査について、認定こども園等未就学児の状況は得られると思うが、小学生以上の事業所、学童が気になっている。その様な箇所への調査は行わないのか。
- 事務局 今回、ニーズ量に対する量の見込み、確保の方策を検討し、ニーズ量に対し保育所等をどれだけ整備するかを計画に定める必要があり、幼稚園、保育所、認定こども園等に事業所調査を行う予定。こどもルームも当然ニーズに対する整備もあるが、全て市が設置している。運営は社会福祉協議会に委託しているが、市内には民間の学童保育所はない。こどもルームは市で整備していくのが今のところの考えなので、ルームに対して事業所調査は考えていない。
- 会 長他に何かあるか。策定方針については事務局案のとおり承認してよろしいか。
- 《異議なし》
- 会 長 それでは、事務局案のとおり承認とする。

○議題2 ニーズ調査の結果について

- 会 長 議題②「ニーズ調査の結果について」事務局より説明をお願いします。
- 事務局 《資料2について事務局説明》
- 会 長 ただいまの説明について、何か質問はあるか。
- 蜂谷委員 資料2の12ページの現状(1)に「母親がフルタイムで就労する未就学児童の」とあるが、未就学というと、小学校入る前の子どもという認識だが、未はつくのか。
- 事務局 小学校に上がる前の母親に聴いたということ。お子さんが小学生に上がった時の過ごし方を聴いている。
- 白石委員 課題が見えた中で、各部署が係わると思うが、その調整中にも時間が経ってしまう。課題に対していつまでに行うといったものは事務局の中であるのか。
- 事務局 今回整理した課題については、来年度から5か年の計画期間となる次期こどもプランで対応する施策を検討する材料となり、基本的にはその中で対応する事になるが、それを待たずすぐに着手できるものもあると思う。
- 利光委員 未就学児の5歳児で時々、保育園、幼稚園を利用していないお子さんがいるが、市で調査、把握はしているのか。どこにも所属していなくてもよいのは分かるが、小学校上がる前、特に5歳児なので行かなくていいのか、と思う。

- 事務局 5歳児の把握という事だが、一件一件、すべてを把握しているという事か。それとも行っていない子どもをだいたい把握しているという事か。
- 利光委員 何年か前には、就学前なので保育園で預かってほしいと依頼があったが、今は5歳児なのにどこにも行っていないお子さんがいて、幼稚園を勧める事がある。同年代の子と過ごした方がいいのではないかと考えている。
- 事務局 学校の方で1年生に上がった際の幼稚園、保育所からの資料や秋に実施する就学前健診の際のアンケートで所属を確認する事はしており、どこにも所属していない子が一定数いるのは、市の教育委員会でも把握していると聞いている。その中で、例えば外国人の方が多いというのは聞いているが、正確な数やそういった家庭に対して、市の方から働きかける事は現時点ではしていない。
- 千脇委員 現状調査で、困っている事として資料を作成している事は分かったが、その困っている原因、理由がそれぞれ違うと思う。経済的に苦しいのはどうして苦しいのか。悩み事についても、悩んでいるのは分かるが、どうしてその悩みが発生するのか。一つこの結果の前の問題についても、調査ができるのであれば、そういう事まで考えてほしい。今からやるのは無理かもしれないが。前の会議でも経済的に苦しい人へのお金の使い方講座を提案したが、そういう根本的な悩みが出る一つ手前の問題も考えてみるのはいかがか。
- 事務局 こういったアンケート調査で、そこまで踏み込んだ調査は中々難しい。資料2の10ページでも悩んでいる方はたくさんいるが、公的な機関に繋がっている事が少ない現状がある。基本的に市の相談窓口などに相談に来ていただくと、悩みのもとに何があるのか踏み込んだ把握にも繋がってくると考えている。まずは、色々な相談機関を充実させてそこに繋げていく。そこから支援に繋げていき、根本的な原因の解消に繋がればと考えている。
- 会 長 アンケートでこの様な事が見えてきて、千脇委員の様な提案もあったので、そういった踏み込んだところまで繋げていただけたらと、私自身も思う。他に何か質問はあるか。
- 佐藤委員 私自身もひとり親だが、とにかく余裕がない。公的なところに相談に行く事ができないという現状がある。資料2にもあったが、子どもが熱を出すと仕事ができない。置いていくわけにもいかないという状況の中で、病児保育がない。一人熱が出ると次は下の子も熱が出たりするので、結局フルタイムで働いていても職場に居づらくなり、辞めざるを得なくなるという負のスパイラルに陥りがちである。ひとり親家庭が増加傾向にある様な気がする中において、両親に頼る事ができない、一人でやらなければならない状態で、ファミサポ等、自分以外の頼める先を確保する事が先決なのだが、まだ受け口が充実しているわけではない。保育所から小学校に上がるので、ここにある問題は継続して小学校にも上がってくるのではないかと。先ほど学童ルームに関しては聞き取り等、現時点では対象になっていないとあったが、一連の流れの中に保育があってルームもあってとなるので、一つの流れと位置付けて調査等してもらえたらよいと思う。

会 長 学童ルームについて調査しないというのは、市の管轄でやっているの調査しなくとも把握できているからか。

事務局 実態として、各保育所を通じて意向調査を行い、学校ごとの将来の入学人数や、周辺の開発状況から乳幼児の状態等を把握して、将来必要となる施設の検討や準備を行っている。3年前から行っており、最近はこのように実情を鑑みながら整備をしているのが現状である。

佐藤委員 病児保育・病後児保育については昨年度から下志津病院でスタートしており、市内在住の方については小学生まで利用できる。

佐藤委員 ただの風邪なら大丈夫だが、例えばおたふく風邪の子がいて、普通の風邪の子が受け入れられない等、隔離する必要のある子がいるとダメな事がある。人員の確保等、色々問題点もあると思うが、子どもが熱を出した時に休まざるを得なくなる状況が解決できる様、病児保育の充実を考えてほしい。

竹原委員 保育園の時は長く預かってもらえたが、小学生に上がると学童は17時までと生活がそこで変わらなければならず、難しさを感じた。そういうお母さん達がいる場合、どうしているのかと気になる。

佐藤委員 今は延長で19時まで大丈夫。

早川委員 子育て支援センターの情報発信について、色々点在しているので情報を集めるのが難しいと感じる。例えば地域の会館だと、場所が分からない、名前も分からないという事で行った事がない人がいる。市政だよりも会館名だけしか書いてないので調べようがない。住所や活動内容が分からないと足を踏み入れられないと思う。例えば一つ焦点を当ててその説明を紹介したり、活動内容を情報発信という形で載せたりするのも一つの案ではないか。また、支援センターに足を運んでいるお母さん方は、色々な事を話したり情報が欲しかったりして来ていたので、他の支援センターと連携して情報を掲示したり、支援センターも子育てサロンもプレーパークなど全て子どもの遊ぶ場所という認識で皆さんに興味を持ってもらえるような取り組みを、例えば市役所の一角でも支援センターでも構わないので、できたらいいと思う。

事務局 情報発信については課題があると考えている。今の意見を参考に、今後検討していきたいと思う。

千脇委員 そのことについて、「みんなで地域づくりセンター」に竹原委員が関わっていて調査をされていたと思うがお話いただけないか。

竹原委員 子どもサポートプロジェクトを地域づくりセンター主催でやっていて、私も関わっている。やはり見づらい、調べにくいというのがあり、難しさを感じていたので、自分たちで発信しようとした活動である。市政だよりであれば何日に予約をして、何かの活動に参加する等あるが、そうではなく、カレンダー的に場所が書いてある様な、行こうと思った時にお母さん達が行ける様な形だったり、見やすい情報発信の工夫が必要ではないか。お母さん達がいくら集まっても難しいところがあるので、市の方にやっていただきたいとも思っている。

会 長 竹原委員そちらの方は近々にできるのか。

竹原委員 はい。印刷物がある。今回は特に困っている子どもやそれを見つけた大人がどの様に行動するのか。相談窓口もどこか分からないし、どの様に相談するのか分からないという怖さもあると思うので、そういう紙を作って配付している。

千協委員 参加するだけでなく、日常的な困りごとに対応できないかと考えて動いている方達がいるという事がこちらにも届くとよいと思う。相談窓口が近くにあっても中々行けないという意見があったと思うが、学童のお迎えに行った時に何か相談できる時間帯があったらいいなど、困り事の対応をしていくにあたり、課題として相談に行けない、ということがニーズとしてあることが伝わればいいと思う。あと女性、男性の働き方について、働き方、内容というのは、フルタイムだけではないというのがあればいいと思う。

会 長 市の方でも、竹原委員が係わっている、そういう情報提供のものができ上がれば、ぜひ活用していただけたらと強く思う。

会 長 他に意見はないか。ない様であれば、ニーズ調査から見えた課題については、次期子どもプランでの対応をお願いする。

○議題3 本市の子ども・子育てを取り巻く状況について

会 長 議題③「本市の子ども・子育てを取り巻く状況について」事務局より説明をお願いします。

事務局 《資料3について事務局説明》

会 長 ただいまの説明について、何か質問はあるか。

千協委員 先ほどのニーズ調査2ページ目にあった、(2)教育・保育事業を利用していない理由で「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」が10.7%に対して、待機児童0人というのは、どういう事か。

事務局 待機児童の定義だが、特定の保育所だけを希望されている方等は待機児童に入らないなど一定数除外規定がある。単に申し込んでいるが入れていない数については、入所待ち数としている。入所待ち数については、四街道市も現状4月の時点で81名いる。この部分がこういうところのご意見になっているのかと思う。

佐藤委員 市全体の受け入れの人数は足りているが、保護者がこの保育所じゃないと、とって入れない数が別途人数として上がっている。

事務局 一例として、そういうことがある。

千協委員 入所待ち待機ではないという事か。

事務局 そうなる。市内の保育所は22保育所あるが、空きはある。そこでなければ入れるというのが四街道の今の状況。

白石委員 特殊出生率が上がったという事で、四街道市が掲げている子育て日本一のまちづくりの現れだと思う。保育園の待機児童は0人になった。学童も待機児童も0人になったという事もアピールできれば、より一層四街道市に転入してくる方も増えるだろう。そうする事によって、税収も上がり予算もつく様になり、負のスパイラルでなく、正のスパイラルになると思う。私個人の意見でなくて

保育所のお父さんお母さん達も同じ様に考えていると思うので、より一層お願いしたい。

事務局 学童の関係だが、四街道市のこどもルームの待機児童はもう何年もずっと0人となっている。これを維持するために色々考えていきたい。また情報の発信も考えていきたいと思う。

会 長 他に意見はないか。ない様であれば、先ほどのニーズ調査の課題同様、新プランでの対応でお願いする。

○議題4 その他

会 長 議題④「その他」について、事務局から何かあるか。

事務局 次回の開催予定等について、8月の下旬ごろ、次期こどもプランの骨子案などを議題として開催を予定している。続いて、5月16日に開催した本年度の第1回の（仮称）子ども条例検討部会の概要を報告する。開会に先立ち、利光委員に委嘱状の交付を行った。議事としては、最初に、3月23日にプレーパークどんぐりの森で開催された森まつりで実施したアンケートの結果について報告した。その後、県内の制定市である流山、市原さらには世田谷区、西東京市の条文と併せて事務局より条例案のたたき台を示した。現在事務局において条例案の修正作業を行っており、次回の部会で修正案について、再度意見を伺う予定である。最後に、2名の委員議員の方が交代した事に伴い、子ども子育て会議の委員名簿についても最新ものに更新する。委員名簿は、ホームページで公開しているので、ホームページについても後日最新のものに更新する。

会 長 最後に全体を通して何かあるか。

竹原委員 引きこもりというか、学校に行かなくなってしまった子とか、事件を起こしてしまった子が少年院から帰ってきて、相談するところがあるのかというのが分からないので聴いてみたい。

事務局 青少年育成センターが利用できる。そういうところで、何かあれば本人が行き話しは聞いてもらえると思うが。

竹原委員 本人が進んで行く事が考えにくい時は、気なる子がいるという情報があれば、その子に対し積極的に係わりを持つ仕組みがあればよいと思う。

事務局 家庭児童相談室があるので、情報をいただき相談員の方から、他に繋げていける事もあるので、もし近所などで気になるお子さんがいたら、そういうところに連絡いただく事も一つかと思う。

千協委員 小中高の不登校の児童数、学生数は把握しているのか。

事務局 小中については教育委員会で把握していると思うが、ただ高校生は把握していないと思う。

千協委員 数字によっては、そこへの対応も今後必要になると思う。そういうデータもこの会議に上げていただく事はできるか。

最初の会議からだが、小学生以下に偏っているのではないかという意見があったかと思う。年齢を聞いたら子どもは18歳までだという事で、この会議で私

も上の子の事を発言している。現状が分かるものがあるのであれば、そこも対応していけたらと思う。学校を通してだと意見が上がってこないと思う。学校に提案しても、そういった子達は参加しないので、そういう子が参加できる様な場があるのかどうか。少数とか多数とかではないとは思う。現状は知っておく必要が私達にもあるとは思うので、お願いしたい。

事務局 ご意見としては前向きに検討させていただく。ただ現状として、数値はあるが、一番懸念されている、15歳から18歳をどういった形で把握できるかというのも、一つの課題になると思う。時間はかかるかもしれないが、少しずつ前向きに取り組み解決したい。私どもでも中々そういう案は出ないので逆に、案を示していただければ、1つの手法として考えていきたい。ただ行政としてどこまでできるか。個人の問題や、ルールの部分でどこまで踏み込めるのかはある。その辺は考えながらやっていきたい。

千脇委員 今中学校でも不登校だけでなく、サポートルームへの登校みたいなのがあると聞いているが、そういう現状を知らせていただきたい。

石原委員 四街道市の学校警察連絡委員会に出席した。不登校の数やサポートルーム、保健室登校の子ども達の数が出ていたので把握はしていると思う。

会 長 事務局の方でもぜひ今の意見を参考にして、前向きに検討していただきたい。他に意見はないか。

《発言なし》

○閉会

会 長 以上で本日の子ども・子育て会議を終了する。